

入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 68名、女子 43名
- ② 現役 56名、1浪 43名、2浪 10名、その他 2名
- ③ 地域別入学者数

北海道	0名	東北地方	1名
東京および関東地方	96名	甲信越・北陸地方	3名
東海・近畿地方	9名	山陽地方	0名
四国地方	0名	九州地方	2名
その他（在外教育施設等）	0名		

Ⅲ. 国家試験

1. 医師国家試験

第108回医師国家試験が2月8、9、10日の3日間にわたって実施され、結果が3月18日に発表された。全国受験者総数は、8,632名、うち合格者7,820名で、合格率は90.6%（前年は89.8%）であった。本学は、107名中102名合格（95.3%）、新卒は102名中99名合格（97.1%）、既卒は5名中3名合格（60.0%）であった。

国・公・私立大学の全国総合順位では、第19位（前年は第10位）、私立大学だけでは第8位（前年は第7位）であった。他の私立大学の状況は、自治医科大学（99.1%1位）、順天堂大学医学部（98.9%3位）、藤田保健衛生大学（97.1%10位）、産業医科大学（96.8%11位）、東京医科大学（96.6%13位）、日本医科大学（96.3%14位）、兵庫医科大学（95.6%17位）であった。

Ⅳ. 退任記念式典

平成26年1月31日（金）午後5時30分から「東京プリンスホテル マグノリアホール」にて開催した。退任記念式典では、司会の宇都宮一典教学委員長から定年される景山茂教授（薬物治療学）、杉崎正志教授（歯科）、清水光行教授（内科学講座・循環器内科）、上出良一教授（皮膚科学講座）、本田まりこ教授（皮膚科学講座）、落合和徳教授（産婦人科学講座）、原田潤太教授（放射線医学講座）、又井一雄教授（外科学講座）、加藤孝邦教授（耳鼻咽喉科学講座）、福山隆夫教授（国領校・人間科学教室）、小山勉教授（救急医学講座）、高木一郎教授（内科学講座・消化器・肝臓内科）の12名が略歴とともに紹介され、松藤学長より長年の大学への貢献に対して謝辞が述べられ記念品を贈呈した。また、同窓会、父兄会、医学科学生会より記念品の贈呈があった。退任記念式典終了後には、退任される12教授を囲んで退任記念パーティーが開催され、会場には、教職員、同窓、学生など250名を超える参加があり、盛大なうちに会は終了した。

国領校では、平成26年1月18日（土）午後3時から看護学科1階大講堂において福山隆夫教授（人間科学教室、人文科学研究室）の最終講義（演題「哲学の役割」）を実施した。終了後、バラ食堂にて記念パーティーを開催した。

(2) 看護学科

I. 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長1名、看護学科教学委員4名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月1回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成25年4月～平成26年3月

教学委員長 濱中 喜代

教学委員 田中 幸子、茅島 江子

北 素子、嶋澤 順子

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成25年度は、1年生（22期生）60名、2年生（21期生）43名、3年生（20期生）42名、4年生（19期生）43名で新学期をむかえた。

- ② 平成25年度オリエンテーションは、4月5日から13日にかけて実施した。カリキュラムや学生生活上の注意などの説明、キャリア支援に関するシンポジウム、健康診断やカルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。また、医学科新入生と合同で、スタートアップ宿泊研修（4月7日、8日、山梨県富士吉田市）や救急蘇生実習を行った。
- ③ 平成25年4月6日、学生が自身の知識獲得状況を確認し、今後の学習課題を明確にすることを目的に、2、3年生を対象にコンピュータ試験を実施した。
- ④ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成25年6月29日
平成25年8月23日～8月29日、9月9日～11日
 - ・後期 平成26年1月29日～2月6日
- ⑤ 平成25年7月27日、21期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、山口庸子氏（本学5期生）による講演会が実施され、8月31日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。また、同日保護者会も開催し、有意義な意見交換ができた。
- ⑥ 平成25年11月9日、向谷地宣明氏による精神障害に関する家族や当事者へのサポート活動に関する講演会（テーマ「当事者から看護学生へのメッセージ」）を開催した。
- ⑦ 平成25年10月12日には学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑧ 平成25年10月19日、看護学科4年生と医学科5年生による、医療倫理に関する共修演習を実施した。
- ⑨ 平成25年10月28日には解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4年生が参加した。
- ⑩ 平成25年11月16日、4年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑪ 平成26年3月11日、兼任教員、非常勤講師を交え、講師会を開催した。
- ⑫ 平成26年3月7日には医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、19期生43名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ1名に贈られた。

II. 入学試験

1. 平成26年度入学試験は、平成26年2月10日に一次試験を、2月13日に二次試験を実施した。志願者数は、574名、入学者は60名、その内訳は次のとおりである。
 - ① 女子 58名、男子 2名
 - ② 現役 52名、1浪 6名、その他 2名
 - ③ 地域別入学者数

北海道地方	3名	東北地方	1名
東京および関東地方	52名	信越地方	3名
東海地方	0名	近畿地方	1名
中国・四国地方	0名	九州・沖縄地方	0名
2. 平成25年度オープンキャンパスは、平成25年7月13日と14日の2日間実施し、参加者数は805名（前年比+20名）であった。また、本年度は慈恵祭に合わせ、11月3日にミニオープンキャンパスも開催し、参加者は211名（前年比-21名）であった。
3. 受験生の確保を目的に、学外で開催された14箇所の大学ガイダンス等に教員・学事課職員が参加した。
4. 高等学校3校へ訪問し、模擬講義を行なった。

III. 国家試験

1. 看護師・保健師国家試験

第103回看護師国家試験は、平成26年2月16日（日）に、第100回保健師国家試験は、平成26年2月14日（金）に実施され、その結果が3月25日（火）に発表された。看護師国家試験は19期生42名、18期生1名の計43名が受験し、43名合格（100.0%）、保健師は19期生42名が受験し、41名合格（97.6%）であった。

なお、全国の看護師国家試験合格率は89.8%、保健師国家試験合格率は86.5%であった。

IV. 学生生活アドバイザー

平成21年度より、学生生活を稔り豊かなものとするため、学習上や生活上の悩みを気軽に相談できる学生生活アドバイザー制度を導入した。1、2年生を対象とし、比較的若手の教員が4～5名の学生を担当し、前期・後期それぞれ1回の交流活動の他、適宜自由に活動を行なった。学生アンケートの結果は好評であった。

V. 進路指導関係

学生への進路指導については、早期から担当教員が個別面談を実施するなど、きめ細やかに対応を行った。また、ナース就職支援室と協力し、分院の見学バスツアーを行うなど、慈恵への就職指導にも力を入れた。

平成26年3月卒業生43名の進路の内訳は、次のとおりであった。

本学附属病院への就職	25名
進学	1名
保健師として就職	2名
他病院就職	14名
その他	1名

(3) 大学院

1. 医学研究科博士課程

平成19年度より大学院改革を実施し、以後大学院の改善充実化を図るため種々検討を重ね、平成25年度は以下のとおり実施した。

1) 研究助成制度の運営

平成22年度の経常費補助金特別補助の大幅な見直しにより、大学院生に対する大学院研究助成金と大学院教員に対する医学研究科研究推進費の助成制度が廃止された。本学では研究の充実化と活性化を堅持するため平成25年度は以下のとおりとなった。

① 大学院研究助成金

・平成25年度採択件数：25件

② 医学研究科研究推進費

・平成25年度採択件数：新規2件、継続2件

また、臨床医学講座に所属する教員と基礎医学講座もしくは総合医科学研究センターに所属する教員が臨床医学における新たな研究の展開と技術開発に関する研究シーズを共同で探索し、次年度に科研費等の外部競争的研究資金を獲得することを目的とした東京慈恵会医科大学萌芽的共同研究推進費を創設した。

③ 萌芽的共同研究推進費

・平成25年度採択件数：新規3件

2) がん治療医療人コース

高度ながん医療を実施できる国際的な視野をもったがん専門医を養成するため、社会人大学院生を対象とした「がん治療医療人養成コース」を既存の悪性腫瘍治療学の授業細目に組入れて、募集を行った。志願者：1名

3) カリキュラム内容の検証

・社会人大学院生のニーズにより、平成23年度から共通カリキュラムにe-learningシステムを利用した「疫学・臨床研究」の科目を導入し、実施した。履修者数26名さらに、CITI Japanによるe-learningシステムを「医の倫理」の科目に導入した。

履修者数42名

・大学院共通カリキュラムの特別講義では、新任の教授だけではなく、本学で活躍している若手研究者を講師として講義を行った。

平成26年度の大学院(博士課程)入試は2回実施し、1回目は平成25年10月5日に、2回目は平成26年1月25日に実施した。その結果、34名(うち社会人6名)が合格した。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、大阪大学、防衛大学校、九州大学、東京医科歯科大学および国立国際医療研究センター、国立成育医療研究センター、東京医療セ